

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	染色体不安定性による腫瘍性変化を調べる観察研究
	研究目的	染色体が不安定になることが、正常な細胞ががん細胞に変化する大きな要因と考えられています。ですが、染色体が不安定な細胞が、どのようにしてがん細胞に変わるのか、詳細は分かっていません。この研究では、手術で取られて病理検査に使った標本の残りを使って、染色体の不安定性に関係する異常を調べます。具体的には、FISH という方法でテロメア（染色体の末端、その長さが細胞の寿命を現すとされています）の長さを検査、免疫染色という方法でテロメアの長さを調節する遺伝子や染色体不安定性に関連するその他のタンパク質（p53, H2AX 等）の発現を解析し、臨床情報と比較します。
	研究対象者	2000 年 1 月～2019 年 12 月の間に、神奈川県立がんセンターで胃がん、大腸がん、乳がん、膵がん、の手術を受けた患者さん
	研究期間	西暦 2020 年 3 月 25 日～西暦 2030 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 （チェック[X]が入った項目を利用します）		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input checked="" type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物（尿・便） <input type="checkbox"/> その他（記載して下さい） <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	宮城洋平
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	臨床研究所、病理診断科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	香川大学医学部病理病態学・生体防御医学講座 腫瘍病理学 教授・松田陽子 東京大学医科学研究所・抗体ワクチンセンター（兼）滋賀医科大学医学部 臨床腫瘍学 教授・醍醐弥太郎